

令和4年度印西市地域公共交通会議
第1回本塾第二小学校周辺地域対策分科会 会議録

開催日時 令和4年6月17日（金）午後3時00分から午後3時40分
開催場所 印西市役所 3階 大会議室
出席者 織原拯委員、岩崎員幸委員、石井隆委員、櫻井敦委員、富澤実委員
事務局 交通政策課 本多課長、小林係長、秋本係長、桑原主査、堀内主査補
傍聴者 1名

次 第

- 1 開会
- 2 課長挨拶
- 3 議題

(1) スワン号実証運行見直しガイドラインの策定について

- 4 閉会

会議録（要約）

1 開会

(事務局) ただいまから、令和4年度第1回本塾第二小学校周辺地域対策分科会を始めさせていただきます。

2 出欠の報告

(事務局) 本日の委員の出欠につきまして、ご報告いたします。根本委員・木内委員・和田委員が所用により出席できないとの連絡がございました。

(事務局) また、本日の会議につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第6項の規定に基づき、公開となります。なお、会議傍聴の申し出がありましたので、入室を許可しております。また、会議録作成のため、録音させていただいております。ご了承願います。

3 課長挨拶

(事務局) 続きまして、交通政策課 課長から挨拶となります。

【 課 長 挨 拶 】

4 議題

(1) スワン号実証運行見直しガイドラインの策定について

(事務局) それでは、資料に基づき事務局より、議題(1)「スワン号実証見直しガイドラインの策定について」説明させていただきます。

【資料 事務局説明】

(事務局) 事務局からの説明は以上となります。次年度の方針について、このように進めてよろしいか、ご審議いただければと考えております。

(事務局) 資料をご覧ください。意見のある委員、いらっしゃったら、発言をお願いしたいと思います。

(委員) 利用の目的ですが、説明にありましたが、朝の時間帯が多いのか、日中の時間帯が多いのか。どちらが多いのか参考までにお聞かせいただきたい。わかれば、年代別の利用も参考までにお聞かせいただきたい。

(事務局) 現在、朝夕の定時定路線型よりも、デマンド型の日中の運行形態が、利用者が多い形となっています。その点から、通勤・通学といった形態よりも、日中仕事をされていない方の外出に使われているのではと判断できると思います。

- (委員) 高齢者が多いという認識でよろしいですか。
- (事務局) 高齢者の利用が多いと認識しております。
- (委員) 利用状況の時間帯のデータはないのか。
経過的に、どういう時間帯にどういう目的で使われているか把握されているか。
- (事務局) 利用者のアンケート等で、その実態を把握しようと努めようとはしましたが、なかなか利用者のアンケートが取れずになっていたところでございます。
- (委員) 私の方から補足のような形で。弊社、運行の当事者でございまして、見た目ということになりますが、データに表れているのは、デマンドの方が多いということになります。元々、運行前のアンケートにあった、通勤・通学で使われる年齢層の方は、ほとんど使われてないという印象です。
デマンドでお呼びのある方、電話での受付もこちらでやっておりますので、電話で声を聞いている限り、ほぼ高齢者の方で、免許を持っていない方という印象を持っております。
- (委員) 目的は何っていますか。
- (委員) 目的までは聞いてはいませんが、ただ、行って帰っている所のデータを見ていると病院。北総栄病院であるとか。あとは、プレーグ本塾から小林駅等の買い物ができる施設、そういった所の利用が見受けられます。
- (事務局) その他いかがでしょうか。
- (委員) 拝見して今の話しで感じたのは、正確なデータは必要かな。時間ごとに何人位の方が、どのような場所からどのような所へ向かって移動されているかがわからないと、この曜日この時間削減していいかわからない。そういうデータを少し細かく出していただけると、有難いところかと思えます。事業者様には、そういった契約は入っていないのですか。
- (委員) 行政から求められているものは、運行の内容というのは、ある程度つまびらやかにしております。市の方では、ある程度のデータ、皆さんお求めの完璧なデータかは別問題として、データはお持ちではございます。
- (委員) 出せるものは出す。プライバシーの問題が、この人数だと出てきそうな気がしますので、わからないように出すとか、そのあたりが重要になります。

何を言っているかということ、削減とかサービスレベルを変えたとした時に、詳細なデータを出さないでやると、それで本当に大丈夫かと言わなければいけなくなると思われる。そういうふうにならないようにするため、出せるものは出していただく。

私が見て感じたのは、定時定路線化に関しては、恐らく、定時定路線で走る輸送量ではないということを感じました。1日あたり0～1というのは、かなりきついといいますか、タクシー業者でも維持するのは難しいくらいということで、そうなると、どうしてそういうことになっているのかも諮った方が良くて、そのアンケートがうまくいかなかったという話なのですが、アンケートやってみたほうが良いと思っています。

その利用者の方々を対象にするだけでなく、地域内にお住まいの方々に利用してくれそうにもかかわらず、利用されていない方が何故利用されていないか、ある程度わかると、サービスの改善の方向、糸口が見えてくるのではないかという気がしました。

なので、やるのであれば、その地域でアンケートだからと全数で取ろうとか、あるいはいっぱい質問項目を入れて紙で出してもらおうとかではなくてよくて、訪問一択調査でも大丈夫で、こういうのが欲しい、こういう輸送サービスがあれば喜んで使うというようなことが、もしあれば、そういうサービスに少し舵を切っていく方法もあるのかと感じています。

それがわからないので、どのように変えていけばいいか。ここで、こういうのがいいのではないかと言にくいのですが。乗降する場所というのが、特定になると、かなりタクシーサービスと利便性が少し下がる徴候があります。一方で、タクシーとの住み分けも必要というところもあるのかもしれないと思いますが、そのあたりを少し例えば自宅から特定の場所にという形でやってみてもいいのかなと感じたところでございます。

市役所として収支率の改善は恐らく重要なテーマだろうとは思いますが、利用者の立場から申し上げますと、利用しやすい交通機関があって、それが実際に利用されているかどうかというのが重要ですので、その利用が増える可能性があるかどうかということについて、役所として少しデータといいますか、必要な情報をまとめて収集して、そのうえでどうしたらいいのか、考えていくのがいいのかなと感じました。

(事務局) それでは、地域内にお住まいだということで、住民の一意見という形でも結構ですので、感想をお聞かせ願えればと思います。

(委員) 意見らしい意見は上がってきてはいないのですけれども、確かに皆さん車を持っている方が高齢者でも多いので。独り暮らしとかそういう人が利用しているのかなと思うのですけれども。そういう意見はあがっていない。本当に利用していない場所は、利用してないですね停留所は。本当にタクシー的要素であれば、利用もできるのでしょうか、定時路線というのは行くのは行くけれども、用事を済ませた後に、今度は帰るのはどうしようとか、そういうのを皆さん考えちゃっているのかなと気もしないですが。スワン号について、地区で、皆さん合同で何かというのは、コロナの関係で集まることができないということでやってはいないのですけど。確かに、私もちょっとすれ違ったりすると、

殆ど乗っていないのが多いですね。朝早いなんて空が走っている。
先程もありましたけれど、病院とか商業施設とか、そういう所に利用する人は結構利用したいのしょうけど。この地区からこの地区へ行こうとかっていうのは、あんまり田舎だから無いのではという気もしないでもないんですけど。何とか近所に乗せてってもらおうとか。子供が一週間に一回来るから一緒に行って買い物してきちゃうとか。そういう人もいますので。特にそういった要望とかいう声があがってきていないのは事実です。バスが走っていることは、知っていると思うのです。皆さん見ているし、停留所もあるし。意外と今まで生活の中で車というのは持っているものだという感覚も強いのかなと。ただ、先程言ったように、独りの人とか高齢者の人なんかは動く手段がないですからね。困るは困るのですよ。定期路線より、タクシー的要素の方が、利用要素が多いのではないかなと思うんですけど。今のところそんなところなのですけど。

(事務局) その他、ご意見ありますでしょうか。

(委員) この人数、月だいたい20から多い時40人という。乗る人はだいたい決まっているのかと。

(委員) その通りです。

(委員) 殆どそうですね。1日1人乗ったとして。

(委員) デマンドで決まった人が乗ってくる。

(委員) そうですね。

(委員) 月曜日はAさん。火曜日はBさんというイメージです。

(委員) 例えば、20人位の人。そんな感じですかね。

(委員) そんな感じです。

(委員) そうすると、うちの方もこれからのことを考えると。流れ的に、同じ状況でいくのかなというところで。宗像路線青ルートで路線バスやっていますけども、それも1日平均して20人前後かな。平均して20人超えてくるくらいかなと。乗る人も決まっちゃってる。乗る人はだいたい駅から病院、病院から駅というのが一番多いのかな。ですから、これ例えば、安食の駅を通して病院まで行くとか。日医大から駅を経由して路線みたいな感じでやった方が、結構、利用者が増えるのではないかな。そんなふうに考えます。

(委員) ちょっとよろしいでしょうか。

ご存じの方も多いと思いますが、そもそもこれ、地区の要望で始まった話なのです。正直申し上げて、路線の引き方とかシステムについては、地区の方の要望を踏まえたいので、これで良からうという所から始まった話でございまして。こういうのやってくれと。公共交通機関がないからやってくれと。バスが無いというところから始めさせていただいて、当初もの凄い熱量を感じた。これならいける。ひいては、行政の補助なしでも走れるのではないかとというぐらいの熱量がアンケートでございました。でも蓋を開けてみると、どなたもご乗車いただけない。

現実的な目標値として、そんな中で数年かけて色々動いてきて、コロナがあってそんな現状になっているのですが、アンケートでこういう方がいらっしやった。「今は、いらなけれど、10年後はいる。」私共これを聞いて思うのは、まるで赤字の国鉄のローカル線じゃないかと。いざ廃止になると大騒ぎする方が結構いて、乗って残そうとやって結局残らなかったという話があるのですが、運行する当事者として一言。10年後いるとおっしゃるなら、今から乗って育てないともう終わっちゃいますという瀬戸際に来ておりますので、その辺のことをお考えいただきたい。勿論、アンケート見ていると、走っているのは知っているが乗り方がわからない。実はこの地区、元々、本埜タクシーさんが受け持っておられた地区で。本埜タクシーさんが廃業されて、私共の方で乗務員さんと営業権をお引き受けしてやっておるのですが、元々、タクシーすらお乗りいただけない地区でございます。電話のデータを見ても入ってこない。子供が来るとか、隣の何々さんに乗せてもらうとかで用事が済んじゃうのが現実の状況の中で、わざわざ呼ぶというよりも、そもそも路線バスの乗り方がわからない、そういった意見もございましたし、タクシー乗ったこと無いという人も稀にいるような所でございまして、その辺は、私共事業者と行政の方で協力して皆様に乗っていただける乗り方のお話などやっていかないといけないのだろうというところがあるのですが、アンケートを拝見している中で「今はいらなけれど10年後」とそうおっしゃるのであれば、是非ですね乗っていただきたいとお願い申し上げるところでございます。

(委員) 確かに、今おっしゃるとおりだと思います。

このバスをやろうとなったのは合併後ですよ。3市村、合併した後に色々な意見が後からついてきて、こちらの方が辺鄙になってしまうのではないかと意見が出て、持ち上がったのではないかと私は思うのですが。本埜の時には本埜タクシーさんがやっていたけど赤字で廃止になっちゃった。そういう経緯はあるのですが。でも、合併すれば違うのではないかと。人数も増えて、まとまりもあって色々な動きが出て。それが必要じゃないかと意見が出たのかと思うのですが。アンケートというのは、やはりやれば、どうしてもそういう方向にいきますよね。アンケートというのは、悪い方にいらな、いらなと言う人は、まずいなと思う。だから、欲しいものは欲しいということなのでしょうけど。なんでそこだけというと、バス停が無い人は近くまで歩いて行かなきゃならないし、そういう問題も出るし、なかなか難しいと思うのですよね。定時路線は難しいのかな。やっぱり、呼んで玄関から行けるとというのが、利用者が多いと思うのですが。大変難しいことだと思うのですが。

(事務局) 事業者の方、住民の方の意見がありましたけど、全国的にそういう地域が多いと思うのですが、板谷先生ご意見ありましたら、お伺いできればと思います。

(委員) アンケートで乗ると言った人で、どれくらい乗っているのかと思えば1割も乗っていない。通常的狀況でございまして。私、当時関わっていなかったのですが、実験を始める時に、ある程度約束事を決めておくといい。何人。定時定路線で運行するとなるとワゴンタイプであれば、やっぱり3～4人位乗って欲しいですね。半分取って2人くらい平均して乗って欲しいとか。そこを下回っていたら少し見直しますよと。ガイドラインを先に作っておくと良いというところではありました。あるいはデマンドとかでも、実を言うとデマンドというのは結構きついのではないかと私には見えまして。だいたいこれくらい維持してくれればというような数値を出しておいて、やめますというのではなく、ガイドラインに従えば、サービスニーズにあっていないので見直しますとやっていくのが良いと思ったのですが、ガイドラインが今から作るという話。それやるぐらいだったら、今、少し変えた方がいいというのが私の思ったところであります。今お聞きして、地区の実態が、行ったことが無いので、わからないわけなのですが、困っている人、少数かと思いました。隠れて困っている人が沢山いるようだとか何かの方策を使って、サービス量を落とさないようにする必要がありますけど、おしゃっていただいたように数字から察するに、ヘビーユーザーの数が多分5～6人じゃないかと。5～6人対象であれば、回数を制限してのタクシーチケット支給もあり得るなと感じも受けています。日頃のタクシー、何がいいのかというと、家に来てもらって、そこで行先を告げればいいという便利な部分が1つと。もう1つは誰でも呼び方を知っている。誰でも利用することができる。これがデマンドになると色々地区によってやり方も違って、どうやったらいいのかわかりにくいのか、行政で作った紙がないとやり方がわからないという話が結構出てくる。なので、そう考えると、この状況だとタクシー業者に、是非もう少し維持していただくとありがたい。公共交通がゼロになってしまうと、地区の長期的な可能性がかなり減ってしまいます。車でないと移動できないというかなりリスクの高い地域になりますので、何らかで残していただきたいと思うのですが、民間事業者の皆さんに維持していただくために、積極的にタクシーを使っただけのように策を検討していただくと。もうちょっと実験したらどうか。費用的に今までの半分とか、そのくらいで出来る策もあると思うような気がします。事業者が損しない形で出来るのではないかと思います。

定時定路線は辞めた方がいい。辞めた方がいいと言いながらも、辞めるための手続きはきちんとしないとイケない。ここで辞めた方がいいという話ではなくて、ニーズにあっていないのかどうか、きちんとデータを使って定量的に検証したうえで、ニーズにあった形に変えていく、リーズナブルでかつ利用しやすい形にしますと提案していくとスムーズに次のステップに進みやすいのかと思いました。

(事務局) 板谷先生から、かなり具体的な提案をいただいたところですが、最初に事務局から説明させていただいたような形で、基本的には縮小化という形で進めるのですがすけれども、全く無

くすということは交通政策課の方でも考えておりませんで、一年ちょっと前に作った地域公共交通計画に載せているように、他の地域でも、計画上でいっても10箇所不便地域というのを挙げていますので、そこへもフィードバックできるような形で何か新たなやり方をこちらで考えまして、最終的には地域交通会議の方へかけていくのですけれども、分科会の方でも具体的な案を示せるよう、年何回か協議を重ねていければと考えております。それについて、何か具体的なお提言とか、こういう案がいいのではないかというのがもしあれば、お伺いできればと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員) 確認を。乗降者数がやっぱりポイントだと思っていまして。見ていますと小林駅と北総栄病院とプレーグ本塾ですかね。その比較的利用が多いというか。他の所、失礼なのですが、無くてもいいレベルというか。大変失礼な話ですが、そういう感じに見えます。そうしたら、青と赤が乗降なのかと思ったら、定時定路線とデマンドでそれぞれ分かれている。これは、乗降は区別していない感じですか。乗った人が何人。それとも乗った人がだいたい往復同じ所で乗り降りしているから両方に。

これ結構大事でして。行く時は使えるけど帰りは使えない。デマンドの場合、結構あります。そうすると病院まで片道で使えれば有難いから使っています。帰りはすぐ帰りたいのでタクシー使うとか迎えに来てもらうとか。利用の実態とかがわからないとサービスを変える時にどうやって変えたら皆様に乗っていただけるのか、なかなかわからないところでもありますし、市の方でわかっているところがあれば、こういう利用方法があるとおっしゃっていただけると有難いと思いました。

(事務局) 見直す内容を含めて検討するにはデータが必要だと。それを分析して次が初めて出てくるとご指摘ありましたので、こちらで出来る限りの、データ情報収集しまして、分析できる形で案の方に示せていければと考えています。その他、こうしたらという具体的なお意見ありましたら、千葉県内のデマンド交通の現状を資料としてつけさせていただきますけど、他の市のやり方。こういうのがいいのじゃないか、個人的に考えている部分でも結構ですので、ございましたらよろしく願いいたします。

(委員) 乗車人数からわかるように、今運行しているハイエース、ワイドスーパーロングなのですが、明らかにオーバーキャパでというところがございます。もう1つ、この地区非常に道が狭くて、今運行しているハイエースだと入れない所がある。使っていただけない理由の1つに、家の前まで来ないというのがございますが、現状の車ですと利用者の方の求めに応じて家の前、もしくは近くまで入れないというケースがございます。これが使っていただけない理由の1つじゃないかなと。隣の誰々に頼めば家の前まで来てくれるわけですから、それをわざわざ回って歩いて行くというのは利用者の方にとっては、いささか理不尽な状況であるということは、問題点として認識は持っている。

ここで1つ方法とし考えられるのは、現在の大きな車の運行はやめて、通常のタクシーで一般乗用と両方の登録をして家の前まで行く。運行経費、これは別の話なので、これでまず使いやすくする。車の問題はここでクリアする。利用が増えてくれば、運賃収入が上

がるわけですから、車が小さくなった分、車を増やす方法も考えられるし、利用の少ない曜日・時間帯については、あるのであれば、通常のタクシーモードで運行しておいて、お呼び出しのかかった場合にタクシー乗合で運行するというイメージは多いに考えられると思っていますのでございます。ただ、運行事業者としては、乗務員に給料を払う原資の問題がございまして、今は1台、ある意味行政に借り上げていただいて、原資をそこから運行経費と乗務員の給料を出しているところではございますけど。車をチェンジした場合、どうやって算定するのかが出てくるところでございますが、これはまた別途、国交省を含めて話を伺いつつ、当然各種労働法制に引っかからないような賃金体系に持っていけないと大変危ういことになりますので、それは考えていかなければなりません、その方向での動き方もあるのではないかと弊社の方では考えているところでございます。

(委員) 貴重な意見ありがとうございます。

乗合いと乗用、何かあったような気がするのですが。基本的、今は乗合いですというはっきり区別があればいいんですけど。車両も乗合いの登録があったような気がしたのですが。

(委員) スワン号で使っている車も、ハイヤーとして連絡証を発行しているのと、かつ乗合いとしても連絡証が発行されている。車体に今は何で使っていますと。ハイヤーというのは車体標記の必要が無いので、会社のロゴ以外は、これは一般乗合いで使っていますと表示すれば、そこは問題ございませんし、私共、成田の方でデマンドやっていますが、併用車がございまして併用車で運行する際は、札を下げて運行しております。

(委員) そこをどうやって清算していく、そこを少し調整していかないと良し悪しがわからないので。同じ会社の車を使い分けていくとなると。

(事務局) 只今、具体的なご提案ご意見をいただいたところですが、そういった様々なやり方ご意見あると思いますので、それを含めて今後事務局の方で案を考えて分科会と交通会議に諮って、見直しの方向性、具体的な案を詰めていくという事を、今日の分科会では了承というか、確認・承認いただければ、ここに繋がっていくのかなと考えているのですけれど。ここまで様々なご意見をお伺いしたのですけれども、他のご意見が無ければ、承認の決を採らせていただいて、その確認の結果を来週の交通会議の席で説明して、その会議での了承もお願いするという形で進めたいと思うのですが、いかがでしょうか。それでよろしいでしょうか。

(委員) お願いします。

(事務局) それでは改めまして、分科会の方針として見直し案を作って、見直しを図っていくということで確認させていただければと思います。賛成の方、挙手をお願いします。

【挙手全員】

(事務局) 挙手全員ということで、分科会の意見として確認させていただきました。
それでは、本埜第二小学校周辺地域対策分科会での承認をいただきました。来週の交通会議で意見として報告させていただきます。

5 閉会

(事務局) それでは、以上をもちまして「第1回本埜第二小学校周辺地域対策分科会」を終了いたします。お疲れさまでした。